

1 現在を知る

現在を知る

The Ainu in Contemporary Society

愛努民族的現在

愛努民族的現在

오늘날의 아이누 민족

Айны в современном обществе

現在のアイヌ民族の人口は数万人ともそれ以上ともいわれています。多くは北海道に住んでいますが、就職や進学、結婚などをきっかけに、東京や大阪など各地にくらしの場を移した人たちもたくさんいます。北海道でも、ここ札幌市をふくむ各地にくらしています。現代では、アイヌの人たちが住む村のようなものがあるわけではありません。現在のアイヌ民族は日本のほかの人びとと同じ地域のなかで、ともにくらしているのです。

While the current Ainu population is not precisely known, it is thought to number in the tens of thousands. Most reside in Hokkaido, but much of the Ainu population has migrated to Tokyo, Osaka, and other regions throughout Japan in pursuit of careers, education, or marriage. Hokkaido's Ainu population live in various regions throughout the island, including Sapporo City. However, this does not mean that there are communities populated entirely by Ainu people. In contemporary society, the Ainu live side-by-side with the other residents of Japan.

朝の札幌駅

この写真は、2014年の、朝の札幌駅の風景です。人びとが勤め先や学校に向かっています。札幌のアイヌの人びとも毎日、こうして仕事や学校、買い物などに出かけているのです。アイヌの人びとにとっては当たり前のことなのですが、アイヌのことをよく知らない人のなかには、アイヌ民族が今でも特別な地域でくらしているとイメージしている人もいます。現代のアイヌ民族は、日本のほかの人びとと同じ地域のなかでともにくらしていることを、まず知っていただきたいのです。

●アイヌ民族の現在

現在のアイヌ民族の人口は、数万人ともそれ以上ともいわれています。その多くは北海道に住んでおり、札幌市をはじめ各地にくらしています。また、進学や就職、結婚などをきっかけに、東京や大阪など北海道の外に移り住み、それぞれの地域でくらしている人たちもたくさんいます。

現在のアイヌ民族の衣・食・住や毎日の仕事などのくらしの姿は、日本に住む大多数の人びとと、ほとんど変わりません。伝統的な文化や歴史についての、意識のもち方もさまざまです。アイヌ文化を将来にわたって大事に伝えたいと考え、積極的に継承に取り組む人たちがいます。一方で、普段のくらしのなかではアイヌ文化のことはほとんど意識しないけれども、自分たちの歴史や文化のことは大切に考えている人たちもたくさんいます。

●ある家族の物語から

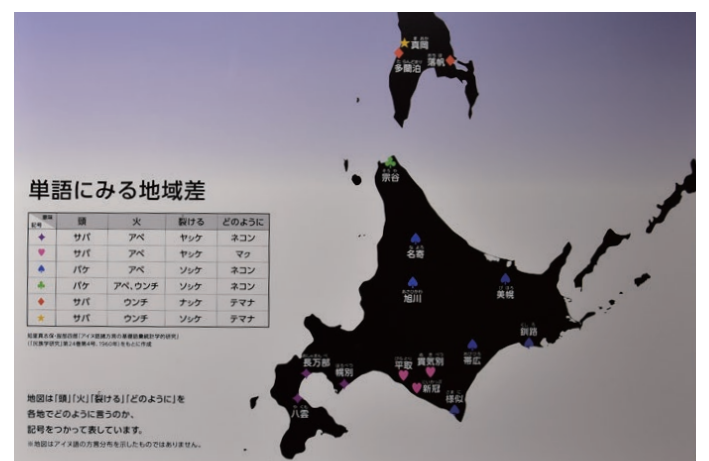
ここでは、架空のアイヌの家族を設定し、現代の小学生である「僕」が、祖父母から自分の家族の歴史を聞く、という展示を設けています。明治のはじめから現在までの、それぞれの時代を生きた人びとを具体的に感じるための試みです。

例えば、5世代前の夫婦は、江戸時代の終わりごろに生まれ、伝統的なくらしのなかで育ち木彫りや刺しゅうのわざを身に付けます。幼いころに漁場で和人に雇われ、厳しい苦労も経験します。成人になり結婚するころ、時代は明治へと変わります。くらしが大きくゆれ動くなか2人は、農業に取り組み、子どもに日本語の読み書きを学ばせるなど、新たな時代を生きる努力や工夫を重ねます。この夫婦やその友人・知人、子どもたちは、農業や漁業、狩猟などに従事するほか、測量技師として道路・鉄道の建設などを支えた人、馬の育成に長け競馬界に進出した人など、つらいこともたくさん経験しながら、それぞれの仕事や学び方、生き方を選択していきます。「僕」は、祖父母から聞く家族の物語を通して、さまざまな世代の人びとの生き方、考え方と出会っていきます。



アイヌ文化の地域差

アイヌ文化を語るとき、「多文化主義」「多文化共生」という考え方が大切だといわれています。しかし、注意したいのは、アイヌ文化は、「多文化」のなかの一つにとどまるものではない、ということです。アイヌ文化にも、地域や個人による違いがあります。同じアイヌ語でも、サハリン(樺太)と北海道では、単語や文法、口承文芸のよび名などが異なります。千島列島の言葉にも、ほかとは異なる特徴があります。北海道のなかでも、地域によって、さまざまな違いがみられます。



〈ことば〉の地域差

この地図は、アイヌ語の単語、口承文芸や歌・踊りの主なジャンルとそのよび名、伝統的な衣服などを例に、北海道やサハリンなどの地域ごとの違いを示したものです。一例として、子守り歌のことを何とよぶか、いくつかの地域で比べてみます。帯広や旭川、白老などでは「イフンケ」ですが、むかわ町鶴川と日高町門別では「イヨンルイカ」です。鶴川と門別の間にある平取町では「イヨンノッカ」とよびます。サハリンなどでは「イユンケ」「ユンケ」などのよび名もあります。